

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1295100026		
法人名	社会福祉法人 八光聴		
事業所名	多古グループホーム		
所在地	千葉県香取郡多古町南玉造460-81		
自己評価作成日	平成29年3月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku./12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7	TEL	0479-63-5036
訪問調査日	平成29年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念のもと「その人らしく」毎日が楽しく笑顔が絶えない生活が送れるよう目指し、利用者同士の関わりを深め、一人ではないと思っただけの雰囲気づくりを実践している。家族、利用者の関係性、家族同士の関係性も良いので施設への協力も得やすく大変感謝している。
 利用者は一人ひとりみんな違うという考えのもと、個々が何を求め、何を必要としているか臨機応変に職員間で話し合い、共有して対応するようにしている。職員については定着率が良く経験豊かな職員が多いのでじっくりと利用者に向き合えるという利点がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設はゆったりと穏やかな雰囲気や理念にあるよう「その人らしく楽しく自由な生活」を管理者と職員で実践されている。利用者アンケートで、職員が明るく親切に対応し、不安な事なども相談にのっていただき感謝している。入所して穏やかになったと感謝している等の意見が沢山あり、職員アンケートでも、職員同士、上司との関係コミュニケーションがよく取れているのが感じられ、利用者様との対応が穏やかに寄り添って行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所における運営理念を日常目に触れる場所に掲げ、いつでも振り返れるようにして共有・実践している。個々の利用者に合わせた支援を行うことを心掛けている。	理念は、「地域とのふれあいを大切に家庭的な雰囲気の中でその人らしく楽しく自由な生活が送れるよう支援していきます。」と玄関に利用者が書道で書き掲げられ、職員は、理念を共有し支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の団体、事業所、民生委員と積極的に情報を交換し行事等があれば利用者の皆さんにも参加を呼び掛けている。また散歩や買い物等に積極的に出かけそこで出会った方との交流にも努めている。	法人内の施設の友人に会いに出かけたり、地域のボランティアの読み聞かせの会、お花の講習、ハーモニカの会等参加し、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の地域密着型の施設と合同の運営推進会議を行い、各事業所の方、地域の方、入所者の家族、現在自宅で介護中の家族などに話し合いの場所を提供した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の団体、事業所、利用者の家族を招き、定期的に会議を開き、そこで得た情報や意見等を職員間で共有しサービスの向上に努めている	定期的にい会議が開催されている。市町村の職員等と交え、家族・事業所参加メンバーより質問、意見、要望を受けて職員間で共有しサービスの向上に活かしている。近くの駐在さんも参加予定があり安心して取り組んでいます	会議の記録を残すことも大事ですが、職員全員に共有されることは難しいので、小さなボードに書きしるし「目で見て」共有することも一案される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは日常的に連絡を取り合い、お互いの信頼関係を築きつつ可能な限りの協力体制を構築している。気軽に相談しアドバイスを受けられる関係を築くよう努力している。	市町村担当者とは日頃より密に連絡をとり、お互いの信頼関係を築き、協力関係に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その「人」らしい生活を営むために身体拘束は防犯上やむを得ない場合や入居者に明らかな危険が想像できる場合以外は行わない。全職員もそれを理解し言葉がけやケアの工夫に取り組んでいる。	全職員は、研修に参画のもと正しく理解し玄関の施錠を含めて言葉がけや身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現状において家族や利用者との関係性は至極良好であり虐待の発生はないと思われるが、発生してしまった時も見過すことが無いよう注意喚起している。		

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	可能な限り研修や受講の機会を設け日常的に行われる直接介護の技術だけでなく制度的なことやそれを取り巻く法的な知識も併せて習得できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実際に施設内を見学していただき、入居者の普段の生活状況を確認していただくようにしている。不安や疑問な点については良く話し合い十分に納得理解された上で契約に臨めるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が要望や意見を口に出しやすい関係性を築き、出された要望等については随時検討し可能な限り反映させる。場合によっては関連機関に報告や相談をしている。	利用者や家族が意見、要望を常に口に出して言いやすい雰囲気づくりに配慮し、質問等について答えられることはその場で対応し、職員間で共有し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日のミーティングにおいて意見、提案を出し合い柔軟に対応している。全職員に「積極的に運営に参加していく」気持ちを持ってもらいたいと考えている。	職員会議や毎日のミーティングで意見、提案を出しサービスの質の向上に向けて積極的に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持つことが出来る職場環境を整えるため、行事等の希望があればスタッフの人員を多く確保するなど柔軟に対応している。職員の家庭的な事情等も考慮し働きやすい環境を作るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修のお知らせなどを行ったり、法人内別施設の研修にも参加できるよう協力を仰いでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多古町の認知症デイサービス等との交流や相談を行い、サービスの向上に努めている。また町のケアマネ連絡会に参加しネットワークづくりや研修に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の思いや希望は初期のケアプランや面接記録に記載され、職員間で共有し安心して生活が送れるよう支援に取り組んでいる。また、本人の様子を観察等を通して良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の訪問時にお話を傾聴している。入所後の利用者の様子や状況を伝え、支援方法を確認しあいながら、家族の気持ちや要望を聞き、より良い信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望や意向を踏まえたうえで他のサービス利用も含めて必要な支援を選択できるよう情報提供、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は人生の大先輩であるという認識を職員が共有している。暮らしを共にする場であることを意識し、過不足のない支援を目指すことで本人の力を引き出せるよう工夫、見守りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告を毎月の写真付きの手紙で行っているほか、面会時には入居者の日ごろの様子や本人の思いを出来る限り伝えるよう心掛けている。面会時はゆっくり過ごせるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や知り合いの方には面会を勧め、訪問しやすい雰囲気づくりを心掛けている。また、なじみの場所に出かける、知人のいる場所を訪問するなど今までの関係性が途切れないよう支援に努めている。	一人ひとりのこれまで培ってきた人間関係を把握し馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。また、同法人の隣接デイに訪問したり、お友達との交流も図られている。	同法人の隣接施設に書道の先生や絵の先生がいるので、訪問してもらい新しく交流をして交際の範囲が広がることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員全員が入居者同士の関係性を把握し気の合う方と一緒に過ごせるよう席を調整している。時には職員が間に入ることで関係を保てるよう調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も職員や入居者が病院に見舞いに行ったり特養に面会に行ったりすることで関係性が途切れないようにしている。家族に対しても経過を伺ったりする機会を持つよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向は日々の会話や行動などから把握したり家族から聞き取るなどしている。本当に本人本位であるか、職員間で話しあうようにしている。	一人ひとりの思い・暮らしを日々の生活の中で希望や意向を把握に努めている。これまでの生活歴等を本人や家族等と話し合い、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面接の際に本人や家族から話を伺ったり、アセスメントシートを利用して情報を集めている。日々の会話の中で気づくこともあるので面会の際に家族に確認するなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの様子や心身の状況はミーティングや記録等で職員全員が把握し共有する。個々が有する能力については利用者を含めた全員が認め合えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と話し合い、訪問看護事業所にも相談しながら介護計画を立てる。全職員にモニタリングやカンファレンス等にかかわってもらうようにしている。	半年を目安に介護計画の見直しをしている。本人、家族等との話し合い、訪問看護師と相談しながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員はミーティングや個人記録から情報を把握、共有できるようにしている。新しい工夫や気づきについては随時話し合っケアに反映させ、結果を確認しながら介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の送迎、外出(買い物や散髪など)の送迎はホームで柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市町村や警察、消防署等との繋がりを持つように努めている。 傾聴ボランティアや生花、読み聞かせのボランティアの方にも協力をお願いし楽しみを持ってよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の望むかかりつけの医療機関に受診している。受診に同行して状態を伝えたり本人の希望などを代弁している。緊急時の受診等は家族に連絡し可能であれば同行をお願いしている	本人、家族等の希望のかかりつけ医療機関を受診している。家族が受診支援を行う場合は、施設での状況が医療機関に伝わるよう工夫し、受診結果等は、通院記録に記入し残している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションに依頼し週1回健康チェックを受けている。緊急時や様子がいつもと違う時などは電話で相談しアドバイスを求めたり訪問を受けたりする。主治医との連絡などの便宜を図ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人や家族の不安を和らげるために面会等を行っている。また普段の生活の状況を医療機関に知らせる等情報提供し、入院中の様子を確認することで早期の退院が出来るよう働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	受診時、家族、主治医と話し合い、本人や家族の希望に事業所としてできることを十分に説明している。本人や家族にとって何が一番望ましいのか考えながら支援を行っている。	地域の病院、訪問看護等を利用し事業所として本人や家族にとって一番望ましいのかを支援しながら地域の関係者と取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が心肺蘇生法、感染症対策の研修に参加し、事故発生についての対応、ロールプレイングを実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	色々な場面を想定した避難訓練を行い入居者が安全に安心して避難できる方法を全職員が身につけるようにしている。法人内の別施設や地域との協力体制を築いている。	マニュアルを作成し年1回の夜間想定訓練を含んだ避難訓練が行われ安心、安全に避難できるよう職員全員が身につけるとともに地域との協力体制を築いている。	同法人の隣接の別施設と同時に避難訓練を行い災害対策を職員が身につけるとともに地域との協力体制を期待する。

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の自尊心を尊重したケアに努めるよう心掛け、日々の関わり方を検討したり、職員同士が意識向上を図るようにしている。	本人を尊重し、日々の関わりかたにおいてプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の言動の中から思いや希望を聞き出すようにしている。生活の中でも本人が決めることができるような声掛けに努め、買い物の際や外食メニュー決定の際には自分で選べるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には食堂で全員そろって食事するようにしているが、本人の体調や希望に合わせて起床時間や食事の時間や場所を変更するなど臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回 理美容のサービスを受けているが希望があれば外部の理容室等に出かけている。着替え等は本人に衣類を選択してもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食、夕食は食材を注文している。朝食については入居者と相談しながら決めるようにしている。メニューによっては一緒に調理をしたり味見や配膳のお手伝いをしてもらう。	昼食、夕食は食材を注文している。朝食は、入居者と相談しながら作っている。食事は季節感がでており、利用者と同じ物を隣に座って声かけしながら食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は各々が食べやすい形態で提供する。水分や食事の摂取量については毎食チェックし、摂取量が十分でない時は好きな食品などで補うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きや口腔ケアを行っている。夜間は義歯を預かり洗浄剤で除菌しケースで保管している。 本人や家族の希望で歯科医に往診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し本人の排泄のパターンを把握したり、本人の様子をみながら声掛けや誘導することでトイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表を利用し本人の排泄パターンを把握し声掛けや誘導することで、トイレの排泄や排泄の自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取を勧める等便秘予防に努め、野菜やお芋など便秘に良いとされるものを摂ることで自然排便を促している。個別にはヤクルトやヨーグルトなど摂取していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、本人の希望や体調等で柔軟に対応している。ゆったりとした気持ちで入浴を楽しめるよう支援している。	個別にあった入浴が楽しめるように柔軟に対応している。入浴を拒む人に対して言葉かけや対応の工夫をし一人ひとりに合わせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて休息の声掛けを行っている。眠れない時は安心して眠れるよう声掛けや見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	温度版ファイルにお薬の説明書を綴り込み職員がいつでも確認できるようにしている。服薬の際にはきちんと服薬できているか確認している。通院時に主治医に報告や相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、おしぼりを巻く、野菜の収穫などの他に、個別に居室の掃除やベッドメイキングなどできることは手伝ってもらっている。気分転換を兼ねた外気浴など屋外の活動も促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、体調、本人の希望を考慮しながら散歩やドライブなどに出かけている。本人の希望に添えないような場合は別に時間を作るなど工夫している。	一人ひとりの希望にそってその日の支援を決めている。希望に添えない場合は別に時間を取り工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者からの希望があれば所持していただいている。買い物の際に自分でお金を支払っていただくなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話を掛けたり手紙を出したりすることはできる。職員と一緒にポストに投函しに出かける支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気の良い日は窓を開けて換気を行っている。湿度に気を配り加湿器を利用している。夏季は朝顔でグリーンカーテンを作るなどして西日が和らぐように工夫している。	共有空間は、照明や日差しがまぶしかったり、暗かったりしない。湿気に気を使い加湿器を利用し、テーブルやソファで思い思いに、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になりたい時は居室で過ごしたり、リビングや日当たりの良い廊下など好きな場所でくつろげるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し居室に予定を書き込めるカレンダーや家族と一緒に移った写真やお花を飾るなど本人が安心して過ごせる空間づくりをしている。	本人が居心地よく過ごせるように、プライバシーを大切にしながら心地よく安心して過ごせるよう馴染みのものを部屋に置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入り口に見やすい表札を付けるなどして自分の居室がすぐわかるように配慮している。		